



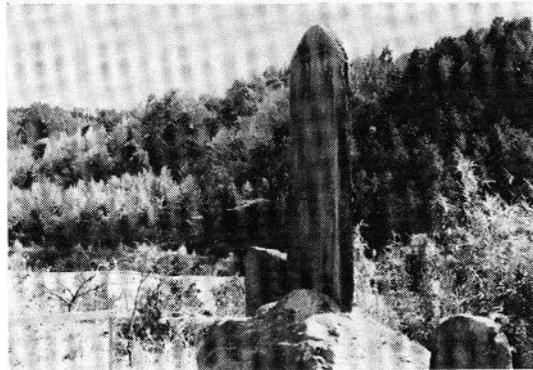
南足柄市内山の 震災復興碑

御殿場線山北駅から矢倉岳の方向に約4 km、洒水^{しゅすい}の滝や内山の集落をやりすごした県道わきに大きな震災復興碑がたてられています。

維時大正十二年九月一日関東大地震亘一府六県如我郡北足柄村山岳崩壊耕地亀裂家屋倒潰五十八戸死傷十三名加之交通杜絶用水欠乏電灯亦滅住民失居所迫飢渴其惨害不可名状当局者速協議立策以救火急次加修理者……（以下略）

碑は全面漢字でうまり、現在の私達にとってそれを読むためには大変な努力が必要です。幸いなことに、この碑文は南足柄市教育委員会発行の史談足柄第二集に次のように読み下されています。

^{これ}維時は大正十二年九月一日、関東の地大に震い、一府六県に亘る。我が郡北足柄村は山岳崩壊し、耕地亀裂し、家屋倒潰するもの五十八、死傷十



^{さんめいしかのみ}三名加之ならず交通は杜絶し、川水は欠乏し、電灯亦滅し、住民は居所を失い、飢渴に迫られ、其惨害名状す可らず。局に当る者速に協議し、策を立てて火急を救い、次いで修理を加うるもの（以下略）

まず役場や隔離病舎、小学校の修理がなされ、ついで大正十三年一月から三年計画で村道や橋、堤防の工事がおこなわれました。別に耕地整理組合が設けられ荒地や導水路の工事がおこなわれたことが刻まれています。この石碑は大正十五年六月に建てられました。

（平野富雄）